

第2学年国語科学習指導案

指導学級 宮古市立千徳小学校

2年2組 男17名女14名計31名

指導者 板井直之

指導場所 2年2組教室

研修テーマ 筆者の思いを感じることができる児童の育成

筆者は、自分の感動や思いを読み手に伝えようと文章を書いている。その内容を読み取ることが、国語の本質であると考え。この力は、将来、書物などから、思いを学び、自分の生き方に反映させたり、人と豊かにコミュニケーションをとったりする生きる力につながる。2年生段階では、筆者の伝えたいことを感じ取ることができるようにしたいと考え、本テーマを設定した。

これまでの授業では、書かれている言葉を注意深く読み取ることや書かれていることから感じたことについて素直な言葉で話したり書いたりする活動を大切にしてきた。

1 単元名 たしかめながら読もう「一本の木」(光村図書 2年上)

2 単元について

(1) 児童について

本単元は、学習指導要領「C読むこと」内容イ「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を読むこと。」と「B書くこと」の内容ウ「語と語や文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。」を受けて設定した。

児童は「たんぽぽのちえ」において、時間的な順序に沿って、たんぽぽの仲間を増やす知恵を見つけることができた。「サンゴの海の生きものたち」では、文章と写真を比べながら、生き物どうしの関係を読み取ることができた。

このように、児童は、ある程度のまとまりのある文章を読めるようになってきており、話の大体をとらえる力も付きつつある。しかし、文や語をとばして読んだり、書かれていることを確認しながら読めなかったりするため、正確さが十分でないことが多い。また、文章を書かせると思いついた順で書く状態であり、順序を整理する必要性を感じていないようである。これらのことから、書かれている事柄を整理しながら読んだり、順序立てて書いたりする経験を積ませる必要がある。

(2) 教材について

本教材は、まず、説明文教材「一本の木」に書いてある文章の表現に即して丁寧に読み取る活動を行い、次に、読み取ったことを生かして、内容を自分で選び、絵入りの説明書を書く活動を組み合わせて構成している。

「読むこと」の「一本の木」の前半は、話題提示文の後、順序を表す言葉を使い、一本の木の描き方について説明しており、事柄の順序を重視した構成になっている。後半は、木が育っていくときのきまりや様々な特徴の木があることについて説明し、それぞれの挿絵が示す木を文章と比較しながら読ませるようにしている。「書くこと」の学習では、読むことで学習した順序を表す言葉を用いて、端的に説明することと文と挿絵を対応させることにより、わかりやすい説明書を作る活動を設定している。これらのことから、本教材は書いてある事柄を丁寧に整理して正しく読んだり、伝えたいことを正確に表現したりする力を身に付けることに適していると考え。また、このように読み手にわかってもらうために、書き手は文章を考えていることに気付かせることは、筆者の思いを感じようとする姿勢につながるものと考え。

(3) 指導にあたって

児童が興味をもち、学習に取り組めるよう、視覚的に内容をとらえられる挿絵を活用する。その挿絵を順序を表す言葉や事柄を示す文章と対応させることで、木が育っていく順序やきまりについてしっかりと読み取らせていきたい。また、身の回りにある木を実際に見て、木が成長するきまりを確かめたり、いろいろな特徴の木があることを知ったりしながら、今まで気付かなかったものを知る喜びを味わわせていきたい。また、この教材を通して、木以外の身近な自然や科学的事象にも目を向け、新しい気付きを発見したり、自然や科学の神秘に感動したりできる子供に育てていきたい。説明書作りでは、本文に出てくる順序を表す言葉と指示語を用いて挿絵と対応させた説明書を作らせることで、説明的な文章を書く力を育て、それを読む力にもつなげられるようにしていきたい。

3 単元の目標

- (1) 書かれている事柄の順序に沿って読もうとしたり、順序を考えてわかりやすく文章を書こうとしたりしている。(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 書く事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意し、わかりやすく説明書を書くことができる。(書くこと)
- (3) 挿絵、順序を表す言葉や重要語句を手がかりに、順序を正しく整理して読むことができる。(読むこと)
- (4) 順序を表す言葉を理解し、使うことができる。(言語についての知識・理解・技能)

4 学習指導計画

段階	時	学習内容
つかむ	1	・全文を読み、大まかな内容をつかむ。 ・新出漢字の練習、語句の確認をする。
	2	・課題をもち、学習計画を立てる。 ・自由に木をかく。
たしかめる	3	・「一本の木」の描き方を読み取る。
	4	・叙述にあるきまりと校庭の木を比較して観察し、木の育つきまりをまとめる。
	5 本時	・様々な形をしている木の様子を読み取る。
	6	・全文を読み、大体をとらえる。
	7	・学習を振り返り、わかりやすい説明文について確かめる。
ひろげる	8	・絵入りの説明書の作り方を確かめる。
	9	・作り方と遊び方を絵と文章で書き、説明書を作る。 ・表紙、裏表紙を作り、説明書を完成させる。
	10	
	11	
	12	・絵入りの説明書を読み合い、感想を発表する。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・さまざまな木の形をとらえ、一本一本の木は同じきまりだけでなく、それぞれが違いをもっていることを読み取ることができる。(読むこと)

(2) 本時のねらいを達成するための手立て

- ・文章を挿絵につなげることで、叙述の具体化を図る。
- ・くり返し使われている助詞「も」を丸で囲ませて意識させ、「も」の使われている意味をとらえさせる。

(3) 展開 (5/12) (太字ゴシック体は手立てにかかわる部分)

時間	学習活動 ○発問 ・指示	指導上の留意点
つかむ 8分	<p>1 前時の想起 ○木が育っていくときの2つのきまりとは、何でしたか。</p> <p>・今日の学習場面を音読しましょう。(P40L10～P42L6)</p> <p>2 課題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>一本一本の木をよく見るとどんなことが分かるのだろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・P40L5～P40L9を音読させ、前時に学習した「みきからえだへ、えだからもっと細いえだへと、分かれること」と「じめんから遠くなるほど、えだは、細く、みじかくなること」の木が育つきまりを想起させる。 ・最初に、学習場面を把握するため一斉の音読を行わせる。 ・本時に登場するさまざまな形の木の挿絵を提示し、その七本の様子をとらえることをとらえさせる。
たしかめる 32分	<p>3 学習場面の音読 ・学習場面を音読しましょう。(P40L10～P42L6)</p> <p>4 学び合い ○さまざまな形の木とムナーリさんの描いた絵と比べてどんなところが違いますか。</p> <p>・それぞれの木の説明がどこに書かれているかを見つけて線で結びましょう。</p> <p>・さまざまな木をもっとよく見ていきましょ。</p> <p>・「も」という言葉を丸で囲みましょう。</p> <p>○ほんものの木は、七つの形だけでいいですか。</p> <p>5 まとめる ・最後の段落を視写しましょう。 ○「ちがうところ」とは、何でしょ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵の木について書いてある段落を児童に音読させ、七つの木のこと書かれていることを確かめさせる。 ・ムナーリさんの描いた絵と二つのほんものの木の挿絵を比較することで、他のさまざまな木の特徴をよりとらえやすくする。 ・「みきがとても長く～」 「みきはみじかくて～」の二つについては、一斉に行い、それ以外は、児童に取り組みさせる。どのように結びつけたかは、全体で確認する。「みきやえだがまっすぐな木」については、挿絵がないことを説明する。 ・それぞれの木の説明の文章中の言葉が挿絵のどこにあたるのかを確認させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>・「も」という言葉に着目させ、○で囲ませる。そして、いろいろな形の木が挿絵以外にも存在することに気付かせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・最後の段落を音読させ、「おなじところ(きまり)」と「ちがうところ

	う。 ○「同じところ」とは、何でしょう。	(形)」とは、どんなことかを考えさせる。
	木は、そだつきまりは同じです。でも、一本一本の木をよくみると違う形をしています。	
ひろげる 5分	6 ふり返り 7 次時の学習の見通しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習の感想を書かせる。 ・ 全文を読み、内容を整理することを伝える。

(4) 具体の評価規準

観点	十分満足できる	概ね満足できる	努力を要する児童への支援
読むこと	一本一本の木の何が同じで、何が違うのかを読み取ることができる。一本一本の木にも個性があることを感想にもっている。(教科書・ノート)	一本一本の木の何が同じで、何が違うのかを読み取っている。 (教科書・ノート)	前時は、どの木の描き方も同じでよいことから、きまりが同じことを確かめさせた上で、木はどれも同じ形かを問う。

6 板書計画

木の木がある。

木がそだつきまりは同じだが、いろいろな形をしたたくさん

よく見ると、ほんものの木は、さまざまな形をしています。

えだが二本ずつに分かれる木でも、みきがとても長くて、えだがみじかい木があります。みきはみじかくて、はじめの二本のえだが長くて、ほかのえだは ぜんぶみじかい木もあります。二本のえだの長さが 同じではない木もあります。えだが下をむいて のびる木もあります。みきやえだが まっすぐな木もあるし、くねくね まがっている木も あります。

えだの分かれ方も、二本だけではありません。三本、四本、もっと多くのえだに分かれる木もあります。みきの先からではなくて、とちゅうから、えだが、よこに出ている木も あります。一本一本の木を、よく見てみましょう。ほかのたくさんのお木と、同じところやちがうところが 見えてきます。

① みきからえだへ、えだからもつと細いえだへと分かれる。

② じめんから遠くなるほど、えだは、細く、みじかくなる。

